

研究課題	地域社会との協働と連携による「課題対応力」の育成
副題	～「深い学び」を実現するキャリア教育の推進を通して～
キーワード	キャリア教育 ICT活用 深い学び 地域に開かれた教育課程
学校/団体名	三条市立大島中学校
所在地	〒955-0094 新潟県三条市大島5039番地
ホームページ	<a href="https://www.city.sanjo.niigata.jp/section/ojimachu/">https://www.city.sanjo.niigata.jp/section/ojimachu/</a>

## 1. 研究の背景

本校は、全校生徒80名程度の小規模校である。生徒は大変落ち着いており、何事にも真面目に取り組む。その一方で、固定化された人間関係の中で生活しているためか、自分から何かに挑戦するといった向上心が低い傾向にある。また、狭い価値観の中で短絡的に物事を考えてしまう傾向が見られる。これまでも、当校ではプロジェクト・アドベンチャーを行い、人間関係づくりに努めてきた。また、「考え、議論する」道徳の授業をはじめとして、全ての授業で「学び合い」を中心とした授業づくりの実践及び研究を行ってきた。しかし、授業で身に付けた価値観や教科の学習内容が、実際の生活の中で資質・能力として生かされていないという課題が残った。

そこで、平成29年度より、生徒一人一人がこれからの社会を生きる力としての「課題対応力」を設定し、地域社会と連携・協働したキャリア教育を通して、今の学習が生徒の今の生活や将来の生き方につながる「深い学び」を実現したいと考え、本研究を行った。

## 2. 研究の目的

新しい学習指導要領では、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現が求められている。キャリア教育は地域と関わり、実際の社会での学習活動が必要不可欠である。そこでICT機器をキャリア教育における3つのツールとして活用していく。それは、①「深い学び」を実現する「学び合い」のツールとして、②校内外活動における「情報収集・活用」のツールとして、③高校生や職業人など、地域との協働や連携を図る「協働・連携」のツールとしてである。これらの視点からICT機器を活用することで、実社会との関わりを重視したよりリアルで「深い学び」を実現するキャリア教育を展開できると考えた。様々な課題を仲間と共に解決していく中で、キャリア教育の基礎的・汎用的能力をもととした「課題対応力」を身に付け、自分の将来を逞しく生きる力や地域の未来を考え、持続可能な社会の創り手となる力を身に付けさせたいと考えた。

どの学校においても地域の教育資源があり、特色ある教育活動がある。キャリア教育はすでにどの学校においても行われている教育活動である。実社会と学校とを結ぶキャリア教育にICT機器を活用し、より充実した教育活動を展開したいと考えた。

以上のことから、本研究では、ICT機器をキャリア教育による「授業改善」と「カリキュラム・マネジメント」の実現に活用し、その有効性について明らかにする。

3. 研究の経過

年度	①時期	②具体的な取組	③研究内容		
			授業改善	カリキュラム・マネジメント	評価
2018年度	5月	職員研修（研究内容の共通理解）	○	○	
	5月	第1回訪問アドバイス兼校内研修	○		
	5月	第1回情報モラル研修（メディア・リテラシー）			○
	7月	職場体験学習（2学年）		○	
	8月	校内プロジェクト会議	○	○	
	9月	第2回訪問アドバイス兼校内研修（職場体験プレゼン作り）	○	○	○
	10月	地産地消弁当作り		○	
	11月	特別研究指定校視察	○	○	○
	11月	2018年度研究成果報告会（職場体験学習報告会）	○	○	
	12月	地元の農業高校でのパウンドケーキ作り		○	
	12月	ICT機器活用研修	○		
	1月	第2回情報モラル研修（講義及びリーフレット作り）			○
	2月	開発商品試食会		○	
	2月	地元の農業高校生徒とのジャム作り		○	
	2019年度	3月	第3回訪問アドバイス兼校内研修（地域をPRするCM発表会）	○	○
3月		タブレット等の健康面に関する講義			○
4月		職員会議（研究内容の共通理解）	○	○	○
4月		G Suite for Educationの活用研修	○		
4月		修学旅行PR商品販売体験		○	
5月		第1回訪問アドバイス兼校内研修（修学旅行販売体験発表会）	○	○	○
6月		開発商品企画発表会	○	○	
6月		学校周辺草花マップ		○	
6月		生徒作成の情報モラル啓発リーフレット配布			○
7月		キャリア・パスポート、アンケート調査			○
10月		第2回訪問アドバイス兼校内研修（ルーブリック表の作成）	○	○	○
11月		特別研究指定校研究成果発表会（商業高校とのテレビ会議授業等）	○	○	○
12月		キャリア・パスポート、アンケート調査			○
1月		第3回訪問アドバイス兼校内研修（研究のまとめ）			○
1月		第3回情報モラル研修（講義及びリーフレット作り）			○

4. 代表的な実践

(1) 「学び合い」ツールとして活用実践

「学び合い」の授業の指導過程において5つの共通実践事項（①課題提示、②授業の流れ、学習のつながりの説明、③話し合い活動、④教え合い活動、⑤振り返り活動）を設定し、それぞれの場面に「課題対応力」を関係づけ、授業改善を図った（表1）。特に、①課題提示や③話し合い活動、④教え合い活動において、ICT機器を活用した効果的な「課題対応力」の育成を図り、学びが生活や社会とつながる「深い学び」を実現できると考えた。

<授業改善の実践例>

表 1 共通実践事項とそれぞれの課題対応力との関係

- ・ 1 学年 数学「関数」
- ・ 学習課題「円とドルの関係を考えよう！」

指導過程	共通実践事項	課題対応力
導入	課題提示	やり抜く力
	授業の流れ, 学習のつながり	えがく力
展開	話し合い活動	かかわる力
	教え合い活動	支える力
まとめ	振り返り活動	見つめる力

- ① 「課題提示」の場面では、タブレットで円とドルの両替に関する画像を提示し、本時の学習課題を理解させるとともに、学習意欲を高め、最後までやり抜く力の育成を図った。
- ② 「授業の流れ, 学習のつながり」の場面では、日常のニュースに為替相場の情報や為替チャートが示されていることを提示し、これから社会人として生きていくために必要な知識であることを説明し、将来をえがく力の育成を図った。
- ③ 「話し合い」の場面では、タブレットを使って円とドルの関係を視覚的に捉えさせ、話し合い活動を活発にするとともに、グループで話し合った考えを、タブレットを使って他の生徒に分かりやすく発表させ、人とかかわる力の育成を図った。
- ④ 「振り返り」の場面では、ルーブリック表をもとに、振り返りカードに本時の取組や学習の理解についての自己評価をさせ、自分を見つめる力の育成を図った。

(2) 「情報収集・活用」ツールとして活用実践

「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、地域との連携や協働して取り組む活動をカリキュラムに位置付けた。それらの校外の様々な体験活動等において、生徒や教員がデジタルカメラやタブレットで撮影した画像や動画を材料として、タブレットやコンピュータでプレゼンテーション資料としてまとめ、発表会等を通して、体験学習で得られた知識や技能、自己の考えなどを他者に伝える活動を行った。

特に総合的な学習の時間においては、1年生から3年生までのストーリーを重視した活動を展開した。1年生では「農業体験学習」、2年生では「職場体験学習」、3年生では「福祉体験学習」と勤労観、職業観を育む発展的、継続的な体験学習を実施した。また、1年生での地域の良さを再発見する地域学習として学校周辺の草花をタブレットで撮影し、地図を Google Maps を活用した草花地図を作成したり、地域の良さを取材し、地域をPRするCM作りを行ったりした。2年生では、地域の資源を生かした地域をPRする商品の開発に挑戦し、3年生では、その商品を修学旅行先である京都市で販売する活動を行った。その様子を撮影した画像や動画をまとめ、1, 2年生に修学旅行体験記として報告・発表した。また、修学旅行では、地域PR商品の販売体験において、タブレットを用いて地域や商品の説明を行った。

(3) 「協働・連携」ツールとしての活用

キャリア教育を推進するためには、地域との連携と協働が必要不可欠である。また、校外の実社会での学習活動が重要となる。しかし、生徒が校外で学習活動を行うためには、移動のための時間的問題、金銭的問題が生じる。これらの問題を解決するために、ICT 機器を地域と「協働・連携」するためのツールとして活用を工夫した。

総合的な学習の時間では、「郷土愛」、「地域貢献」をテーマに、3年間のストーリーのある学習を行った。1年生では、地域の良さを再発見する活動を行い、2年生では、3年生の修学旅行先で地域PRのために販売する商品を開発した。商品開発では、県立三条商業高等学校の先生から商品開発や商品販売についての基礎を学び、自分たちが考えた商品企画書を完成した。その企画書をもとに、食品製造業者の方と試作商品を製作した。その際、商業高校の先生とテレビ会議でアドバイスをいただいたり、食品製造業者の方とテレビ会議やメールの授受により、協議を重ねたりして、ICT機器を「連携・協働」ツールとして効果的に活用し、地域の特産品を使ったPR商品を開発、完成させることができた。

## 5. 研究の成果

### (1) 「授業改善」における成果

#### ① 生徒の「課題対応力」の育成について

ICT機器を活用した共通実践事項において「課題対応力」の育成を図ってきた。「課題対応力」をそれぞれ4つの項目で、4段階のアンケート調査をおこなった。アンケート調査の結果、1学期（7月実施）と2学期（12月実施）において大きな差は見られなかったが、全体的に高い数値を示した。「かかわる力」の人間関係形成能力が1学期よりも上昇したことは、学習活動を通して、よりよい集団として成熟してきていることを示している（図1）。

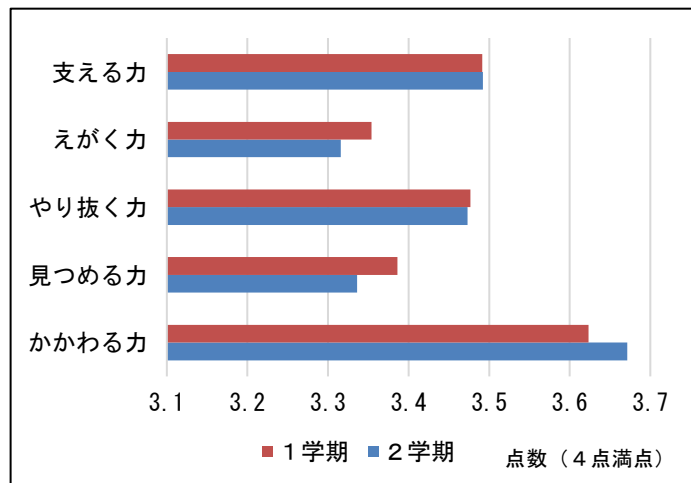


図1 「課題対応力」生徒アンケート結果

#### ② 生徒の学習意欲の向上について

生徒の学習意欲についてのアンケート調査を行った結果、2学期は意欲的に取り組んでいる生徒が100%となった。キャリア教育を通して、今の学習と自己の生活や将来と関連付けられたことや生徒も教員もICT機器を授業の中で日常的に活用するようになったことが、学習意欲の向上につながったと考える（図2）。

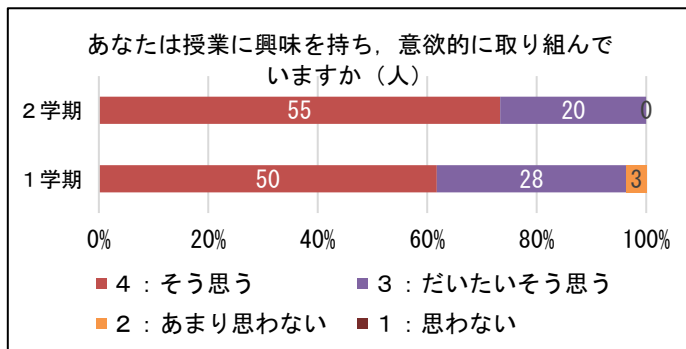


図2 生徒の学習意欲のアンケート調査結果

③ 教員の授業改善について

教員の授業改善においては、「教科等の指導に日常的に ICT 機器を活用し、より効果的な活用方法について研究している」という質問項目に対して、4月はレベル0（ほとんどしていない）から10月にはレベル3（学校全体で研究している）に

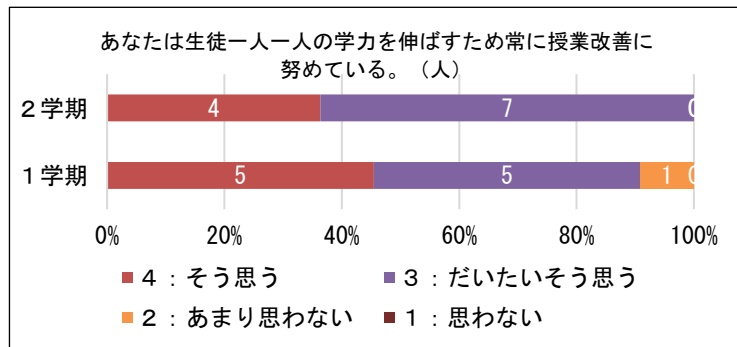


図3 教員の授業改善のアンケート調査結果

上昇した。このことからICT機器を「学び合い」のツールとして活用し、共通実践事項のそれぞれの場面において「課題対応力」を効果的に身に付けられるよう授業改善が積極的に図られたと考える。また、2学期の教員アンケートの結果では、授業改善に努めていると肯定的な回答をした職員は100%であった（図3）。このことからICT機器の授業への活用が個々の授業改善に深く関係していると考えられる。

④ 保護者のキャリア教育の理解について

保護者の学校のキャリア教育に対する理解も高まってきている（図4）。地域と連携・協働した発展的、継続的な体験活動のカリキュラムへの位置づけとその実践やICT機器を活用した授業実践について学校から家庭、地域に積極的に発信したことにより、キャリア教育に対する保護者の理解が高まったと考える。

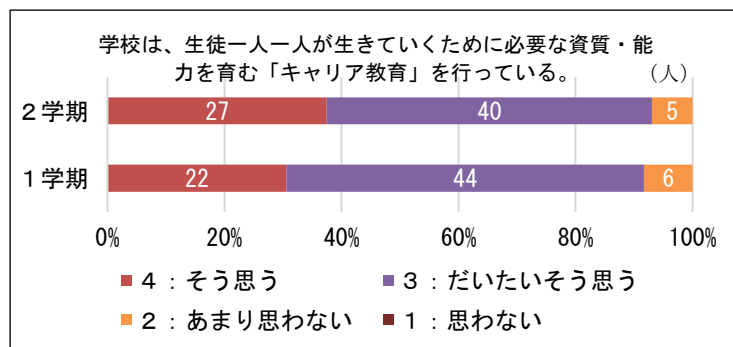


図4 保護者のキャリア教育の理解のアンケート調査結果

(2) 「カリキュラム・マネジメント」における成果

① キャリア教育のカリキュラム表を作成

学校での学びが生徒の生活や将来とつながる「深い学び」を実現するため、すべての教科、領域、総合的な学習の時間において、キャリア教育を位置づけた。授業の中で、「地域の職業人を招いての授業」と「職業や進路に関する学習内容を扱う授業」をそれぞれ色分けして、カリキュラム表に明示した。年間を通してカリキュラム表を見直し、色付けをしていくことで、徐々に色付けられる単元が増え、教育活動全体でキャリア教育が実践されていることを全職員で共通理解を図ることができた。

② 3年間のストーリーのある総合的な学習の時間のカリキュラムの実施

「郷土愛」と「地域貢献」を目的として、地域と連携・協働し、地域の教育資源を活用した3年間のストーリーのある総合的な学習の時間のカリキュラムを実施できた（図5）。



図5 3年間のストーリーのある総合的な学習の時間

(3)キャリア教育の「評価」における成果

① 「課題対応力」を評価するルーブリック表の作成

5つの「課題対応力」について、4段階の「基本のルーブリック表」を作成し、キャリア教育のより客観的な評価を行った。また、それぞれの教科の単元の内容に合わせて「基本のルーブリック表」を改変し、振り返りカードに明記して授業の評価に活用した。

② キャリア・パスポートや学校評価アンケートのコンピュータによる入力・集計・管理

「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」を見つめるキャリア・パスポートや生徒、教員の学校評価アンケートを、Google社が提供する教育機関向けG Suite for Educationの機能であるFormsを活用し、コンピュータを活用した入力・集計・管理を行った。

6. 今後の課題・展望

「課題対応力」の評価が生徒評価と保護者や教員の評価と大きな差がある。今後さらに、ルーブリック表を工夫・改善しながら、教員評価と生徒評価が近づくよう生徒の自己評価能力を高め、ICT機器を活用して生徒の成長と学習の成果を客観的に評価していく。また、ストーリーのある総合的な学習の時間が、ルールに乗せられた学習の時間とならないような工夫が重要である。「郷土愛」、「地域貢献」という大きな目標を見失わずに、ICT機器の効果的な活用を推進し、生徒の主体的な探究活動が促されるよう工夫された学習活動を創造していく。

7. おわりに

本研究では、地域の「ひと・もの・こと」とのつながりを大切に、よりリアルな学びを実現するキャリア教育を教育課程の中核に据え実践した。生徒一人一人が「深い学び」を通して、「課題対応力」を身に付け、学校で学ぶ目的や学ぶ意義を理解させたい。そして、自分の将来をたくましく生きる力を身に付け、地域の未来を考え、持続可能な社会の創り手となることを願い、今後もICT機器を活用したキャリア教育を推進していきたい。